

自ら学ぶ力の育成に関する研究（中間発表）

学習指導要領では、予測困難な社会を主体的・創造的に生きていくために、児童生徒が基礎的・基本的な知識を確実に身に付けることに加え、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質・能力を育むことがうたわれている。

本研究は、「学ぶことの楽しさ・よさ」を実感する活動を通して、児童生徒が学びの主体となって、「自らの学びを調整しながら、自ら学びの内容を深めたり学びの水準を高めたりする力」を養うことを目的とし、生涯にわたって学び続ける「自立した学習者」の育成につなげた。

<検索用キーワード> 自ら学ぶ力 生きる力 主体的に学習に取り組む態度
振り返り AARサイクル

研究協議会顧問

名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授

柴田 好章（令和4、5、6年度）

研究協議会委員

江南市立宮田小学校教諭

小野 宏貴（令和5、6年度）

豊川市立中部小学校教諭

安田 了（令和5、6年度）

東浦町立北部中学校教諭

久田 大輔（令和5、6年度）

幸田町立幸田中学校教諭

山本 弘文（令和5、6年度）

愛知県立松平高等学校教諭

林 佳宏（令和5、6年度）

愛知県立豊丘高等学校教諭

（現愛知県立御津あおば高等学校教頭）

本田 英貴（令和5年度）

愛知県立豊丘高等学校教諭

鈴木 佑治（令和6年度）

愛知県立岡崎聾学校教諭

原 和大（令和5、6年度）

総合教育センター研究指導主事

（現豊川市立東部中学校教諭）

太田 恵里（令和4年度）

総合教育センター研究指導主事

（現愛知県立名古屋聾学校教頭）

荒井 麻里（令和4年度）

総合教育センター研究指導主事

（現西尾市立花ノ木小学校教諭）

神谷 厚毅（令和4、5年度）

総合教育センター研究指導主事

（現愛知県立鶴城丘高等学校教頭）

中村 羊大（令和4、5年度）

総合教育センター経営研究室長

（現江南市立布袋小学校長）

佐々 恵（令和5年度）

総合教育センター研究指導主事

山田 和幹（令和5年度）

総合教育センター研究指導主事

（現中高一貫教育室指導主事）

志賀 充規（令和5年度）

総合教育センター研究指導主事

（現特別支援教育相談室長）

柴田 朋宏（令和5年度）

総合教育センター研究指導主事

杉山 寛仁（令和5、6年度）

総合教育センター研究指導主事

青木 将司（令和6年度）

総合教育センター研究指導主事

三浦千加子（令和6年度）

総合教育センター研究指導主事

武田 邦生（令和6年度）

総合教育センター研究指導主事

林 俊樹（令和6年度）

総合教育センター研究指導主事

伊豆原章人（令和6年度）

総合教育センター研究指導主事

渡辺 美穂（令和4、5、6年度）

総合教育センター研究指導主事

小岩めぐみ（令和6年度）

総合教育センター研究指導主事

（現豊橋市立豊橋高等学校教頭）

中元 大生（令和4年度主務者）

総合教育センター研究指導主事

伊藤 卓哉（令和5、6年度主務者）

1 はじめに

「OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」では「教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組み」として、児童生徒が「教師の決まりきった指導や指示を

そのまま受け入れるのではなく、未知なる環境の中を自力で歩みを進め、意味のある、また責任意識を伴う方法で、進むべき方向を見出す」ことの必要性が唱えられている。これは、グローバル化の進展や技術革新、人工知能（AI）の発達により、10年先の将来ですら予測が困難な時代の中で、さまざまな変化に積極的に向き合い、一人一人が持続可能な社会の担い手として、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出すためには、「自らの学びを調整しながら、自ら学びの内容を深めたり学びの水準を高めたりする力」が今まで以上に必要であることを示している。日本でも、「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」（中央教育審議会第一次答申、1996年）において「生きる力」が提唱され、その中で「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」に言及しているが、これは現在の予測困難な時代を生き抜いていく子供たちが身に付けるべき「自ら学ぶ力」と同義のものである。

「自ら学ぶ力」は、学習指導要領における育成すべき資質・能力である「学びに向かう力、人間性等」と深いつながりがある。「学びに向かう力、人間性等」を養うためには、学びに見通しをもつこと（Anticipation）、学びの中で学習方略を身に付けること（Action）、学びを振り返ること（Reflection）により次の学びへと向かう学習サイクル（AARサイクル）が有効であるが、その学びのサイクルの実践については各学校において試行錯誤しているところであり、本研究によって実践事例を示すことは意義があると考えた。

本報告書は、令和4年度から令和6年度までをまとめた中間発表である。

2 研究の目的

学習指導要領では、予測困難な社会を主体的・創造的に生きていくために、児童生徒が基礎的・基本的な知識を確実に身に付けることに加え、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質・能力を育むことがうたわれている。

本研究は、「学ぶことの楽しさ・よさ」を実感する活動を通して、児童生徒が学びの主体となって、「自らの学びを調整しながら、自ら学びの内容を深めたり学びの水準を高めたりする力」を養うことを目的とし、生涯にわたって学び続ける「自立した学習者」の育成につなげる。当研究では、主にメタ認知の観点から、自己調整しながら学んでいく力を育む方策について研究し、子どもたちが自ら学ぶ力を効果的に育み、学習指導要領の趣旨を踏まえた学びの実現を目指す。

3 研究の方法

令和4年度は、所内研究として研究の方針について協議を進め、令和5年度からは、研究協力校（小学校2校、中学校2校、高等学校2校、特別支援学校1校）の代表委員と所員による研究協議を行い、以下の(1)から(3)について、協力校での実践や協議を通して、その内容について成果と課題を検証する。

- (1) 愛知県総合教育センターが用意したツール、SWOTシート、アンケート（次ページ図1）、段階図（次ページ図2）を活用しながら、目指すべき児童生徒像を設定し、全教員が同じ児童生徒像（方向）に向かって教育活動を行い、その変容を捉える方法を考える。
- (2) 児童生徒がAARサイクルを回しながら学び続けるためには、児童生徒自身が「学びたい・振り返りたい」と思う必要があるため、教科や行事等を横断的に連携させ、児童生徒が「学びの楽しさ・よさ」（学ぶ意義・価値）を実感できるよう、従前の教育活動を検討する（カリキュラム・マネジメント）。

(3) 自らAARサイクルを回すには、児童生徒が「学習を見通し、振り返る」学びの過程を身に付ける必要があるので、児童生徒に適した学びの過程を各学校で研究する。

【図1 児童生徒アンケート】

内的調整	① 授業に楽しさや充実感を感じている 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
内的調整	② 学校の授業以外のことで、楽しさや充実感を感じている 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
内的調整	③ 授業の中で、夢中になって取り組めることがあった 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
内的調整	④ 学校の授業以外のことで、夢中になって取り組めることがあった 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
内的調整	⑤ 授業の内容について、不思議に感じたり、もっと詳しく知りたいと思うことがよくある 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
同一化的調整	⑥ 授業で学んだことが日常の生活に役に立っている 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
同一化的調整	⑦ 学校の授業（や行事）は、自分の将来のためになっている 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
達成・向上意欲	⑧ 難しいことでも失敗を恐れないで何事にも挑戦している 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
達成・向上意欲	⑨ 「自分でやる」と決めたことは、最後までやり遂げている 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
達成・向上意欲	⑩ 苦手なこと（授業や勉強・学習）について、何とか工夫してやっている 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
可能性・関係性	⑪ 授業の中で級友に質問したり、級友の質問に答えたりしながら学びを深めている 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
可能性・関係性	⑫ 先生方は、わたしのことを認めてくれている 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
可能性・関係性	⑬ 授業や行事を通して、自分らしさ（よいところ）を実感している 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
社会参画	⑭ 学校や地域（周り）のために進んで行動することができる 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
社会参画	⑮ 新聞・ニュース等で報道されている出来事について、級友や家族とよく話題にしている 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない
学習の技能・基盤	⑯ PC・タブレット端末などのICT機器を自らの学びを深めるために活用している 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる 3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない

<参考>自己調整学習の段階 (Ryan & Deci (2002))

内的調整	おもしろいから活動するなど、活動そのものが目的
統合的調整	自分の価値観や目標と一致するから活動する
同一化的調整	自分にとって重要だから活動する
取り入れ的調整	恥ずかしさや不安により活動する
外的調整	外的報酬・罰により活動する

【図2 自ら学ぶ力の段階図】

「自ら学ぶ力」の段階図（小学校低学年～高学年）

A B：語尾を「～できる、られる等」で統一

すすんで（ひらがな）

出あう		学ぶ		振り返る	
Lv.	ふれる	Lv.	知る・やる	Lv.	内容・結果
A	自らすすんで学習内容に「はてな・不思議」を見付けすることができる	A	自らすすんで取り組むことができる	A	自らすすんで学習を振り返り、何ができたようになったか（何ができないか）が分かる
B	出あわせ方（教師）の工夫により、学習内容に興味をもつことができる	B	支援を受けながら取り組むことができる	B	支援を受けながら、学習を振り返り、何ができたようになったか（何ができないか）が分かる
C	出あわせ方（教師）の工夫をしても、学習内容に興味をもつことができない、興味をもとうとしない	C	支援を受けても取り組めない、取り組もうとしない	C	支援を受けても学習を振り返られない、振り返ろうとしない
Lv.	つかむ	Lv.	考える	Lv.	方略（一般）・過程（具体）
A	自らすすんで、何を学習するのが分かる	A	自らすすんで考え、課題解決に向けて繰り返し試すことができる	A	自らすすんで（教師の助言を受け）学習したことが日常生活のどんな場面で活用できるか分かる
B	支援を受けながら、何を学習するのが分かる	B	支援を受けながら、課題解決に向けて考えることができる	B	個別の支援を受けながら、学習したことが日常生活のどんな場面で活用できるか分かる
C	支援を受けても、何を学習するのが分からない、分かつとうとしない	C	支援を受けても、課題解決に向けて考えられない、考えようとしていない	C	個別の支援を受けても、どんな場面で活用できるか分からない、分かつとうとしない
Lv.	見通す	Lv.	関わり合う	Lv.	実践性
A	自らすすんで、何ができるようになるのが分かる（見通しがもてる）	A	自らすすんで他者に伝えたり、他者の意見を聞いたりして、新たな価値に気付くことができる	A	自らすすんで学んだことのよさを実感し、他の学習や日常生活で活用することができる
B	支援を受けながら、何ができるようになるのが分かる（見通しがもてる）	B	支援を受けながら、他者に伝えたり、他者の意見を聞いたりすることができる	B	学んだことを同様の学習場面で再現することができる。
C	支援を受けても、何ができるようになるのが分からない、分かつとうとしない（見通しがもてない、もとうとしない）	C	支援を受けても、他者に伝えたり、他者の意見を聞いたりできない、聞こうとしない	C	学んだことを同様の学習場面で活用できない、活用しようとしていない

4 研究の内容

当センターにおいて年間5回の研究協議会を実施した。また、研究2年次からは研究協力校を訪問し、研究推進のための授業参観や会議の参観等を行った。次の表は、研究に関わる研究協議会及び授業参観等の活動状況をまとめたものである。

研究年度	実施日	活 動 内 容
令和1年次 年度	5月26日	協議会①：研究内容の検討、文献による研究、情報交換
	7月21日	協議会②：調査方法及び調査対象の検討①
	9月16日	協議会③：調査方法及び調査対象の検討②
	12月16日	協議会④：次年度の研究方針及び研究協力校について検討
	2月9日	協議会⑤：今年度の研究成果のまとめ、次年度の年間計画について検討
令和2年次 年度	5月22日	協議会①：研究の概要、方針説明、情報交換及び方向性についての共通理解
	7月7日	協議会②：研究の進捗状況及び課題に関する協議、情報交換
	9月26日	研究協力校（中部小学校）訪問による授業参観及び研究協議
	10月6日	協議会③：研究の進捗状況及び課題に関する協議、情報交換
	10月23日	研究協力校（宮田小学校）訪問による授業参観及び研究協議
	10月27日	研究協力校（北部中学校）訪問による授業参観及び研究協議
	11月6日	研究協力校（幸田中学校）訪問による授業参観及び研究協議
	11月8日	協議会④：研究の進捗状況及び課題に関する協議、情報交換
	11月8日	研究協力校（松平高等学校）訪問による授業参観及び研究協議
	12月4日	研究協力校（幸田中学校）訪問による授業参観及び研究協議
	12月13日	研究協力校（豊丘高等学校）訪問による授業参観及び研究協議
	1月22日	協議会⑤：本年度のまとめと次年度の取組について
	1月29日	研究協力校（宮田小学校）訪問による授業参観及び研究協議
2月6日	研究協力校（岡崎聾学校）訪問による授業参観及び研究協議	
令和3年次 年度	5月22日	協議会①：研究の概要、方針確認、情報交換及び方向性についての共通理解
	6月12日	研究協力校（松平高等学校）訪問による授業参観及び研究協議
	6月21日	研究協力校（宮田小学校）訪問による授業参観及び研究協議
	6月25日	研究協力校（岡崎聾学校）訪問による授業参観及び研究協議
	6月26日	研究協力校（幸田中学校）訪問による授業参観及び研究協議
	7月2日	研究協力校（中部小学校）訪問による授業参観及び研究協議
	7月9日	研究協力校（北部中学校）訪問による授業参観及び研究協議
	7月12日	協議会②：研究の進捗状況及び課題に関する協議、情報交換
	8月1日	研究協力校（豊丘高等学校）訪問による学校行事参観及び協議
	9月17日	協議会③：研究の進捗状況及び課題に関する協議、情報交換
	10月29日	研究協力校（幸田中学校）訪問による授業参観及び研究協議
	11月19日	協議会④：研究発表会（中間報告）に向けての準備
	11月29日	第64回総合教育センター研究発表会（第2部会）にて中間報告
	12月11日	研究協力校（岡崎聾学校）訪問による授業参観及び研究協議
1月28日	協議会⑤：本年度のまとめと次年度の取組について	

研究協力校の実践については以下のとおりである。

- (1) 江南市立宮田小学校
- (2) 豊川市立中部小学校
- (3) 東浦町立北部中学校
- (4) 幸田町立幸田中学校
- (5) 愛知県立松平高等学校
- (6) 愛知県立豊丘高等学校
- (7) 愛知県立岡崎聾学校

5 研究のまとめと今後の課題

各研究協力校の実態に応じた実践や研究協議を基に、「自ら学ぶ力」を育成するためには、児童生徒が学習に見通しをもつこと、学習方略を身に付けること、振り返りを行うこと、それをまた次の学習への見通しへとつなげていくことが大事であることを確認し、各学校で試行錯誤を重ねて有効な手だてを探ってきた。今後は、実践を通じて得られた成果を、学校全体で共通理解を図る場を設定し、更なる学習方法や指導の改善に生かしたい。また、教員間の連携を高めるとともに、児童生徒一人一人の見取り方や見通しのもたせ方についての理解も深め、児童生徒が自分に合ったAARサイクルに取り組んでいけるようにしていきたい。